

## 1 巻

- 執筆者一覧、章扉

門田先生 所属

修正前：「ケアウイング曙」

修正後：「株式会社ケアウイング」

- 目次、章扉

修正前：JSPO-AT の安全と健康管理,セルフマネジメント

修正後：JSPO-AT の安全と健康管理,セルフマネジメント

- P27 表 1-4-3

修正前：1911（明治 44）＊大日本体育協会創立（初代会長：加納治五郎）

修正後：1911（明治 44）＊大日本体育協会創立（初代会長：嘉納治五郎）

- P190 左段 14 行目

修正前：教育・啓蒙活動

修正後：教育・啓発活動

## 2 卷

- 執筆者一覧、章扉 緒方先生 所属

修正前：「東海大学」

修正後：「公益財団法人日本バスケットボール協会」

- P8 参考文献 2)

修正前：日本スポーツ振興センター：帳票 170 5-3 場合別，場所別件数表 一校舎内—（高等学校等），学校の管理下の災害〔令和 2 年版〕令和元（2019）年度データ，日本スポーツ振興センター 学校安全部 令和3年3月，2021. <https://www.jpnsPort.go.jp/anzen/kankobutuichiran/tabid/1961/Default.aspx> : 170. (2021 年 6 月閲覧)

修正後：日本スポーツ振興センター：帳票 5-3 場合別，場所別件数表 一校舎内—（高等学校等），学校の管理下の災害〔令和 3 年版〕令和 2 (2020) 年度データ，日本スポーツ振興センター 学校安全部 令和3年 12 月，2021. <https://www.jpnsPort.go.jp/anzen/kankobutuichiran/kanrika/kankobutuichiran/tabid/1988/Default.aspx> (2021 年 6 月閲覧)

- P81 右段下から 2 行目

修正前：用いられる 24)

修正後：用いられる 25, 26)

- P82 左段上から 7 行目

修正前：示している 24)

修正後：示している 25, 26)

- P82 左段上から 13 行目

修正前：実施には慎重を期する必要がある 25)

修正後：実施には慎重を期する必要がある 26)

- P82 右段上から 7 行目

修正前：が必要である 26)

修正後：が必要である 27)

- P82 右段上から 18 行目

修正前：方法となる 26)

修正後：方法となる 27)

- P158 左段 16 行目

肩関節前方脱臼 肢位

修正前：肩関節内転・内旋位

修正後：肩関節軽度外転・内旋位

- P159 膝内側側副靭帯損傷 画像 B・C の説明文

修正前：B.下腿外側からはじめ～ / C.大腿外側で止める

修正後：B.下腿前面からはじめ～ / C.大腿前面で止める

● P165 左段 11 行目

修正前：③スプリットテープが浮いている場合には、テープを足関節前面に張った後サポートテープを巻くとしわができない。

修正後：③スプリットテープが浮いている場合には、テープを足関節後面に張った後サポートテープを巻くとしわができない。

● P178 左段 20 行目

修正前：アスレティックリハビリテーション

修正後：リコンディショニング

● P224 左段 40 行目

修正前：カナダ産婦人科学会では、カナダ運動整理学会が作成した Physical Activity Readiness Medical Examination (URL) の使用を推奨している。

修正後：カナダ産婦人科学会では、**カナダ運動整理学会\***が作成した Physical Activity Readiness Medical Examination の使用をしている。

注釈 \*カナダ運動整理学会 <https://cseP.ca/>

● P260 右段 6 行目

修正前：短長波

修正後：短波長

● P266 右段 下から 3 行目

修正前：AMS への暴露既往が～

修正後：高地環境への暴露既往が

## 3 卷

- P79 図 4-2-9

修正前：B.シングルレッグ（ピストル）リフト

修正後：B.シングルレッグ（ピストル）スクワット

- P129 左段 19 行目

修正前：Karvonen 法

修正後：カルボナーネン法

- P150 左段 3 行目～右段 2 行目

修正前：また、リカバリーにおいて高強度のストレッチングで筋肉痛や筋力低下の抑制効果が

修正後：また、リカバリーにおいて低強度のストレッチングで筋肉痛や筋力低下の抑制効果が

- P176 図 5-3-2

修正前：身長の間年発育量

修正後：身長の間年発育（身長の間断変化より算出）

- P176 図 5-3-2

注記：間断変化では異なる傾向が生じる可能性があることを留意する

- P178 図 5-3-4

修正前：体重の間年発育量

修正後：体重の間年発育量 （体重の間断変化より算出）

- P178 図 5-3-4

注記：間断変化では異なる傾向が生じる可能性があることを留意する

- P178 左段 2~3 行目

修正前：身長の間年発育量のデータから、

修正後：身長の間断変化から算出された間年発育量のデータから、

## 4 卷

- 執筆者一覧、章扉

緒方先生 所属

修正前：「東海大学」

修正後：「公益財団法人日本バスケットボール協会」

- P89 左段 22 行目

修正前：アスレティックトレーナー

修正後：JSPO-AT

- P90 左段 3422 行目

修正前：ディコンディショニング（コンディション不良）状態が続き、

修正後：ディコンディション（コンディション不良）の状態が続き、

## 5 卷

- P90 左段 27 行目

修正前：救急器材を準備しておくこ

修正後：救急資器材を準備しておくこ

- P91 左段 13~14 行目

修正前：セカンドインパクト症候群の予防，セカンドインパクトの防止，

修正後：セカンドインパクト症候群の予防および防止，

- P91 左段 44 行目

修正前：受傷現場での適切な判断と迅速な処置

修正後：受傷現場での適切な判断と迅速な対応

- P92 左段 26~27 行目

修正前：頸椎カラー

修正後：頸椎固定カラー

- P92 左段 27 行目

修正前：アンビューバック

修正後：バッグバルブマスク

- P92 左段 34 行目

修正前：処置用の手袋

修正後：救急対応用の手袋

- P92 左段 34~35 行目

修正前：蘇生が必要な場合のマスク

修正後：心肺蘇生の際に使用する感染防止用マスク

- P92 右段 4~5 行目

修正前：頸椎カラー固定の

修正後：頸椎固定カラー装着の

- P92 右段 8~9 行目

修正前：頸椎カラーによる

修正後：頸椎固定カラーによる

- P92 右段 11 行目

修正前：ヘッドセット

修正後：ヘッドイモビライザー

● P92 右段19行目

修正前：重度外傷

修正後：重症外傷

● P93 左段34行目

修正前：現状の評価を安全かつ迅速に行い緊急度を掌握すること、

修正後：現状の評価を安全かつ迅速に行い緊急度・重症度を掌握すること、

● P94 右段32行目

修正前：①頸椎カラー

修正後：①頸椎固定カラー

※P94～101までに記載のある「頸椎カラー」を全て「頸椎固定カラー」に修正

● P96 右段5行目

修正前：体動の有無

修正後：体動

● P99 左段12行目

修正前：②神経学的異常の観察

修正後：②神経学的異常の確認

● P99 左段26行目

修正前：③頭部・その他の観察（局所の観察）

修正後：③その他の観察事項（局所の観察）

● P99 右段15行目

修正前：⑤主訴の内容から緊急度が高いと予測される

修正後：⑤主訴の内容から緊急度・重症度が高いと予測される

● P100 左段3～4行目

修正前：救急救命士や二次救命処置に引き継ぐまでの間

修正後：救急救命士や二次救命処置ができる人に引き継ぐまでの間

● P102 左段43行目

修正前：もう1人が大腿部と足部を保持する

修正後：もう1人が大腿部と下腿部を保持する

● P102 右段最終行

修正前：リフトアンドスライド法は、1人の訓練を受けた救助者が必要になる。

修正後：リフトアンドスライド法は、8人程度の訓練を受けた救助者が必要になる。

● P103 右段1行目

修正前：① 腕は慎重に横にし，脚は真っ直ぐに揃える。

修正後：① 腕は慎重に体幹に沿うようにし，脚は真っ直ぐに揃える。

● P159 左段 21 行目

赤字箇所追加：～前半省略～心肺停止に至っていなければ救急隊が到着するまではバイタルサインを観察し，重症度の変化に沿った対応を行うが，常に致死的不整脈が誘発され得ることを認識しておかねばならない。なお、意識がありシバリングがある場合は HT I が疑われるが、シバリングを認めなかった、もしくは消失した場合には、復温が達成された以外に、さらなる体温低下を来し HT II 以上に重症化した可能性を念頭に置かねばならない。低体温症発症予防のために、JSPO-AT は、冬季や屋外で行う競技者に対して天候悪化に備えた防寒・防水着を準備するよう指導する。濡れた衣類は体温を奪うため、こまめに着替えを行う様心掛ける。暖かい飲み物を準備して体温の低下を防ぐ。

冬季や屋外での競技会の開催においても、雨風から隔離できる避難場所の確保や救護所にエマージェンシーシェルターや毛布、温熱剤などを準備しておく。

● P159 右段 3 行目

修正前：様心掛ける

修正後：よう心掛ける

● P230 右段 11 行目

修正前：このルールは出血による血痕にも適応される。フィギュアスケートでは手指切創や鼻出血が散見されるため，処置をする際には十分に止血する必要がある。

修正後：このルールは絆創膏などにも適応される。フィギュアスケートでは手指切創や鼻出血が散見されるため，処置をする際には十分に注意する必要がある。

## 6 卷

- P42 右段下から 9 行目

修正前：関節可動域表示ならびに測定法

(文献 4 より一部改変) (日本整形外科学会,日本リハビリテーション医学会,1995)

修正後：関節可動域表示ならびに測定法 (文献 4,5 より一部改変)

(日本リハビリテーション医学会,日本整形外科学会,日本足の外科学会 2022)

- P42 右段下から 2 行目

修正前：日本整形外科学会と日本リハビリテーション医学会が制定する関節可動域表示～

修正後：日本リハビリテーション医学会,日本整形外科学会,日本足の外科学会が制定する関節可動域表示～

- P44～49 図表

修正後のページを以下リンクよりダウンロードいただき、印刷してご確認ください。

[https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/ikusei/doc/AT/ATtextbook2022\\_vol6\\_p.44-49.pdf](https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/ikusei/doc/AT/ATtextbook2022_vol6_p.44-49.pdf)

- P45 図 2 段目 運動方向行

修正前：backward elevation

修正後：backward extension

- P49 左段下から 2 行目 参考文献

修正前：－

修正後：日本リハビリテーション医学会、日本整形外科学会,日本足の外科学会：関節可動域表示並びに測定法  
(2022 年 4 月改訂)